

おひざのうえで 2025⑤

(副園長の子育て応援 Letter)

「 勝 負 」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



運動会は、ご参観ありがとうございました。

保護者の方や祖父母の方大勢がお越しくださり、子どもたちにたくさん拍手と声援で応援してくださいありがとうございました。雨が心配でしたが、どの学年も大きな支障もなく最後まで開催できてほっとしています。

数年前までは全学年が一齐に参加する運動会でした。以前は、年少組の「それぞれが楽しむ可愛い姿」、年中組の「みんなで一緒に力を合わせて楽しむ姿」、年長組の「プライドと勝負をかけた真剣な姿」をすべて見ていただくことができましたので、年少組の保護者の方が年長の演技やリレーを見て「涙が出てきました。」と感動される姿もありましたが、子どもの体力的な負担と、混雑による保護者の皆様の負担を考えて、コロナ以降は学年ごとに開催しています。

子どもたちは、運動会前から何度も他の学年の練習を見ているので、年長のオープニングを覚えて自作のポンポンで真似て踊っている子もいます。リレーに刺激されて、学年クラスごちゃまぜでそこに集まってきた子どもたちでバトンを繋いで走る姿も見られます。運動会後も、兄弟学級でパラバルーンをしたり、組体操を教えてもらったりと、余韻が続きます。世界陸上をテレビで見てから走るのが好きになった子や、サッカーの試合を観に行って毎日園庭でボールをけるようになった子。年長のリレーを見て、バトンを借りに来る年少組の子。バーチャルではなく、リアルな憧れが目の前にあることが子どもの運動脳を刺激されて、動かたくなるのでしょうか。体を動かしたいというのは人間の本能ですものね。

子どもたちの力に感動させられた運動会の取り組みでしたが、その裏で、子どもの揺れ動く思いに懸命に寄り添い支える職員たちがいました。昨年もお伝えしましたが、大勢のお客さんに囲まれ普段と違う雰囲気、当然緊張したり不安になったりする子がいます。当日に向けて、職員たちは、当日に子どもが緊張したり不安になったり、恥ずかしがったりする様々な状況を想定して、その子に合った対応を考えていました。やりたくなかった気分に合わせて練習を始めたり、当日の様子がイメージできるように写真や動画を一緒に見たり、少しでも緊張を和らげるために、その子のタイミングで園庭に出てきたり、心落ち着く小道具を携えたり、運動会という賑やかな楽しい舞台の裏で、様々な工夫や努力をしている保育者たちがいました。また、ご家庭も子どもたちの気持ちに寄り添い、お家で様々な工夫をされたりとご協力いただきありがとうございました。運動会の取り組みに関わらず、せんりひじりでは一人一人の子どもを理解し、子どもの予想される姿に対してどのように関わればその子の育ちに繋がるのかを考えていきます。行動や表情から気持ちを汲み取り、その子にとって一番いい方法をその場その場で判断します。その子にとって一番いい方法ですから、運動会の在り方自体もその子にとって様々でなければいけません。運動会は園のおおきな行事ではありますが、子どもの育ちの通過点の一つに過ぎないからです。柔軟に、多様なあり方を考えることが大切だと思っています。



年長組のリレーでは、「負ける」を経験することで、強くなっていきます。リレーで「負ける」という少し過酷な現実には子どもたちは自ら向き合っていくことになります。練習で負けた後は、決まって子どもたちは頭突き合わせて話し合いを始めます。「何で負けたんやろう」「次は負けたくない」リレーの動画を観ながら、「バトンの練習しないとあかん」「ここで頑張らないとぬかされる」「最初は〇〇ちゃんに走ってもらおう」「みんなが少しずつ速くなったらいいから練習しよう」と一生懸命考えて、次の日は朝からタケ先生のところに行って、走る練習をしている子どもたち。いつも驚かれるのですが、誰も、走るのが苦手な子を責めたり、こけて抜かされたことを責めたりしないのです。速い遅い関係なく、クラスの一人の力として子どもたちは大切に思っているのです。そして、ひたすらどうやってクラスみんなの力をつないで走りきるかを話し合うのです。

子どもに悲しい思いをさせたくないのが大人の心情です。思い通りに行かなくて「悔しい」思いをすることは、大人からすると「かわいそう」に思うことがあります。大人がなんとかしてあげたくなることもあります。しかし、子どもに悲しい思いをさせたくないと思って、その経験を子どもから奪うとどうなるでしょう。今後、悔しいことや悲しいことがあった時にどのように乗り越えたらいいのか分からなくて、そんな事柄から目を背けたり逃げてしまったりはしないでしょうか。リレーでクラスが負ける経験は、悔しいけれども、クラスの仲間と共にどうやったらいいのかを共に考え共に努力して一緒に乗り越えることができる貴重な経験です。「順位をつけると、勝った子はいいけれども負けた子がかわいそうだから。」と、順位をつけないところもあるようです。しかし、勝ったことで自信になることも、負けたことを乗り越えるために努力することも、どちらも大切な経験だと思います。勝つことを目的にして話し合いを重ねた結果、勝った喜び以上に人として大切な経験をします。それがその子たちの人生を支えていくことになると思います。乗り越えた先には、達成感や喜びを感じ自信が芽生えてきます。子どもたちがこれからの人生、自信を持って自走していけるように、乗り越える経験を成功体験に繋げるお手伝いをしていきたいですね。



運動会が終わった後、午後から卒園生が集う「スポーツフェスティバル」がありました。大勢の卒園生たちと保護者の方が来てくださり、にぎやかで楽しいフェスティバルになりました。高学年は職員チームと保護者チームと子どもチームに分かれてリレー対決をするのですが、職員たちは全く手加減なしで勝負します。元気な4年生男子チームは、自信たっぷりで挑戦してきましたが、職員チームに負けてしまいました。すると、悔しさから、「もう一回やらせてくれ!」と言ってきました。6年チームの時に「走らせてくれ!」と言ってきましたが、「人をお願いするのにその言い方はどうかなあ〜」と、元小学校教師の光先生がからかい半分で言うと、手を合わせながらかわいい声を合わせて「もう一回走らせてください。」と言うので爆笑でした。そして、6年生チームと職員チームと保護者チームと一緒に4年生男子チームが走ると、なんと、気合の入った4年生チームが真っ先にゴールテープを切ったのです。満足げな笑顔が眩しくて、こんな風に育ったことが嬉しい一コマでした。帰りかけていたのに無理やり呼び止めて走らされたTさん、遊具の陰にいたのに、晴子先生のマイクで呼び出されて走ってくださったIさんはじめ、走ってくださった保護者の皆様、盛り上げてくださりありがとうございました。

負ける経験、悔しい経験、悲しい経験…。マイナスの感情が働くときは、乗り越える力が育つとき。応援していきたいですね。